

地名なり、又赤坂は、元此一ツ木中の小名なりしが、後手廣く推及びて、總名となりしなり、猶橋場は、元石濱中の小名なるが、後總名となりしに同じ、今赤坂と稱する地域の大やふは、東の方御堀に限り、西は青山に接し、南は麻布に隣り、北は紀伊殿御屋舖に限たれど、昔は猶四ツ谷御門外邊迄、一ツ木の地域なりしとて、一ツ木町名主八郎左衛門所藏上り地記録の内に、十一石貳斗四合四勺、寛永十二年、麴町十丁目尾張様へ渡るなど載たり、

〔南向茶話〕問曰、青山赤坂邊の儀は如何、承度候、  
答曰、○中 青山の號不慥、或説に、此地青山氏の屋敷有之ゆへ地名とすと云へり、

〔新編江戸志七上〕青山澀谷の内

天正の比、此邊山口修理亮重政住す麻布邊まで、此屋しき也、其内七万坪を分て、聳高木主人正次のやしきとする由、

一説にいはいく、青山忠政十万石の時は、今の青山の地一圓に屋敷也、其後忠俊幸成兄弟街道を隔て住せしとなり、按ずるに、山口家一度御勘氣の事あれば、其跡の地を青山家に給はりしにや、然れども、今に山口家の屋敷も残りてあり、山口家、高木家、地はみな澀谷の方なり、青山家の地とは餘程隔たり、尙後の人尋ぬべし、改撰系譜に云、天正十九年、青山常陸介忠成に、此處を宅地に賜ふと有是より青山と號すと云々、

〔御府内備考青山〕青山は、天正十九年、青山常陸介忠成が宅地に賜りし地なり、○中 昔は青山氏の

屋舖殊に廣かりし事知るべし、後年次第に上り地となりて、青山氏の上ゲ地といふべきを、下略して青山と呼しより、おのづから一ツの地名となり、又其近き邊を、かの名をおし及ぼして、ともに青山といひしかば、今は廣き地名となれり、其大略をいは、南の方麻布、今井龍土に續き、北は千駄谷、恩田、鮫ヶ橋に及び、東は赤坂にて、西は原宿上澀谷なり、